

パーフルオロオクタン酸(PFOA)に係る水質調査結果について(第3報)

2010年2月23日

代表連絡先	環境農林水産部 環境管理室環境保全課 化学物質対策グループ ダイヤルイン番号:06-6944-9247 メールアドレス: kankyokanri-g09@sbox.pref.osaka.lg.jp
-------	--

パーフルオロオクタン酸(PFOA)について、神崎川水域の河川等において水質調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

本調査は、神崎川水域及びその周辺の井戸において平成19年度より毎年実施しているものですが、平成21年8月にPFOAが過去の調査結果に比べて高い濃度で検出されたことから、同年12月に引き続き、今年度3回目の調査を行ったものです。

調査の結果、平成21年8月のような高い濃度は検出されませんでした。

1. 調査の概要

- (1)試料採取日 平成22年2月3日(水)
- (2)調査地点 安威川及び神崎川の5地点(別図のとおり)
- (3)分析機関 大阪府環境農林水産総合研究所

2. 調査結果

調査地点	調査結果 (単位:マイクロg/L)
1 安威川流域下水道中央水みらいセンター放流水	0.52
2 安威川 安威川流域下水道中央水みらいセンター放流前地点	0.0079
3 安威川 安威川流域下水道中央水みらいセンター放流後地点	0.50
4 安威川 新京阪橋	0.10
5 神崎川 新三国橋	0.12

- 安威川、神崎川のPFOA濃度は、最大値で昨年8月が7.5マイクロg/L、昨年12月が0.92マイクロg/L、今回が0.50マイクロg/Lでした。(これまでの調査結果は別表のとおり)
- 同水域でPFOAを取り扱っているふっ素樹脂製造工場(ダイキン工業株式会社淀川製作所)からの排水は、公共下水道を経由して、安威川流域下水道中央水みらいセンターから放流されていますが、その放流水中のPFOA濃度は昨年12月が1.1マイクロg/L、今回が0.52マイクロg/Lでした(別図の地点1)。

3. 今後の対応

- ダイキン工業株式会社淀川製作所では、平成24年にはPFOAの取り扱いを全廃するとしており、それまでの間、排水中のPFOA濃度の監視の強化を継続することとしています。
- 府はこれらの取組状況を引き続き把握するとともに、今後とも神崎川水域において河川等の水質調査を行います。

※パーフルオロオクタン酸(PFOA)について

用途	ふっ素を含む有機化合物の一種で、ふっ素樹脂製造時の反応の補助剤として使用されます。ふっ素樹脂の用途は、フアイバーン・炊飯ジャー等のコーティング、配管チューブなどです。
分解性・蓄積性	極めて安定な化合物であるため、環境中で分解しにくく、人間や野生生物の血液中からも検出されています。
毒性	動物実験で肝臓毒性や発達への影響、発がんとの関連などが指摘されていますが、人体への毒性は明らかになっていません。
規制状況	日本では製造数量、輸入数量の届出が義務付けられていますが、欧州においては使用等の制限はありません。また、POPs条約においても規制対象になっていません。
環境リスク評価	環境省が平成20年2月にとりまとめた環境リスク初期評価において、PFOAについては「リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要」との結果が示されています。なお、現在の環境濃度では健康リスクは確認されていません。

添付資料

- (別表)PFOA調査結果 (EXCELファイル、36KB)
- (別表)PFOA調査結果 (PDFファイル、11KB)
- (別図)PFOA調査地点図 (WORDファイル、384KB)
- (別図)PFOA調査地点図 (PDFファイル、105KB)